

ホーム名：グループホーム楠根の里 一階					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念（その人らしく、心身共に穏やかに、楽しみや、張合いのある暮らしをする）を掲げ、全職員が理解に努めている。	理念に基づき、利用者に楽しみや張り合いのある暮らしをしてもらえるよう、職員同士が考え合っており、日々のケアを行っている。各ユニット毎に日々のレクリエーションを記録し、申し送りノートには利用者の細やかな気付きなどを記録。担当が変わっても個人の私見が入らず統一したケアができるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日は散歩に出かけ、近隣の方と挨拶を交わしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、地域との交流が薄れている。	地域のイベントは活動が自粛されているが、周囲の理解や協力の中で、利用者は日常的に地域との関わりを持つことができている。職員は積極的に地域との情報共有に努め、地域に開かれた事業所になるよう、地域とのつながりを大切にしている事業所である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会の取り組みである地域での独居の方の鍵預かりをさせて頂き、地域で安心され、生活が出来る様、支援させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の方を交え、二か月に一度、開催している。ホームの現状報告、活動報告、今後の活動報告を行い、ホームで話し合いを実施している。（新型コロナウイルス感染症の影響にて）	運営推進会議には市職員が来られなくなったが、地域包括支援センター職員や利用者も参加しており、ホームの状況を把握のうえ、意見をもらっている。議事録も適切に整備されている。	職員だけでなく、利用者家族にも運営推進会議を意識していただけるよう、参加の呼びかけや会議の報告を便りの中で行ってはどうか。他のグループホーム職員と連携することも有意義であると思われる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	寝屋川元気アップ介護予防ポイント事業のサポーター受け入れ施設として毎月実施表を送付している。ただ、今年度は、4、5、8、9月は中止となる。	市の担当者とはわからないことを質問するなど、連携を図れている。市からも様々な案内メールが届いており、案内のあった音楽療法のボランティアを取り入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待のないよう具体的な行為の理解に努めている。	生命保護を第一に、職員や医師が家族と緊密に連携しながら、重度化する利用者に対しても、身体拘束のないケアの実践を心がけている。3ヶ月に1回の開催が義務付けられている身体拘束検討委員会を、運営推進会議を活用し、2ヶ月に1度の細やかなタイミングで行っていくこととしている。議事録も細やかに整備されている。	運営推進会議と身体拘束検討委員会の議事録は別々に整備することが望ましい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことのないよう、スタッフ間で話し合いを行い、防止に努めている。特に言葉の虐待には注意をしている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	職員へ権利擁護の理解を持ち、活用出来るよう努めている。		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時、解約時は、家族様に対し十分な説明を行い理解、納得に努めている。		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に意見箱を設置し、いつでも感じたことを書いて頂けるようにしている。ただ、なかなか活用に至らない。	利用者家族が意見を言いやすい環境づくりに努めながら、利用者と家族が距離感を活用しながら良好な家族関係を保てられるよう、心配りを行っている。コロナ禍でも、利用者の日々の生活を家族へ細やかに報告したり、イベントの写真を送付したりしている。	
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	スタッフと信頼関係を持つことで、意見、提案を聞き、反映出来る様、努めている。	日々の業務の中で、お互いに意見が言い合える関係が構築されている。管理者は、利用者だけでなく職員個々の顔色をよく観察し、必要に応じて随時面談を行っている。	職員が意見を出し合い、全員で共有できる体制を取るために、全体ミーティングを出来る範囲で行ってはどうか。
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各職員が、やりがい、向上心を持つことが出来る職場環境、条件の整備に努めている。最低賃金を守り、免許に応じた時給を設定している。また、処遇改善加算は、支払い時期、加算額の説明を文書にて提示し、各スタッフに周知を行っている。		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修を各職員に行ってもらい、研修後は研修の記録を記入してもらい、すべての職員が参照し、捺印を行っている。		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	地域包括主催の地域ケア会議への参加、CM事業所の連絡会の参加を通し、ネットワーク作り、勉強会に努めている。GH交流会が月一回開催され、意見交換を行っていましたが、今年度は開催が出来ていない。		

さ			
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前、各職員へ入居者の情報を伝え、入居者の理解に努めてもらい、職員間でカンファレンスを行い、情報を共有し、入居者との信頼関係づくりに努めている。</p>	
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居の段階で、家族様が困っていること、不安、要望を傾聴し、職員間で共有し、日々の様子観察を報告することで、家族様との信頼関係につなげている。</p>	
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としている支援の見極めには、本人、家族様の訴えを傾聴する姿勢を大切にしている。</p>	
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>7名の方が、家庭的な雰囲気でもごせるよう、職員は、個々の方を理解し、支えている。</p>	
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族と職員がともに、本人を支えていけるよう、日々様子を面会時、家族様にしっかりと報告を行い、共に支えている関係を築いている。また、請求書を送付する際、近況をお手紙で伝えている。</p>	
20	<p>8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を家族様から聞き、継続できるよう支援している。</p>	<p>地域に密着した事業所として、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けている。 コロナ禍では家族以外の面会は制限しているが、面会に来られた際には居心地のいい環境を提供している。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々様子観察、担当者会議を通して、利用者間の関係の理解に努めている。入居者間関係が円滑になるよう居室変更、食事席の変更を行っている。</p>	
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用が終了されても、引き続き、相談をされるよう声掛けを行っている。</p>	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるための相談					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を大切にし、家族の方を交え、話し合いの機会を持っている。	職員一人一人、時間がある時は、利用者に寄り添い、表情や言葉から思いの把握を心がけている。日々のケアの中で利用者が呟いた言葉や希望を反映できる支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族様に聞くこと、以前のCMからの情報を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握を日々の申し送りの中で理解している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者がいつも総合的に把握し家族様、関係者へ連絡調整を行い、介護計画、モニタリングに反映している。	利用者や家族の希望がケアプランに反映されている。ケアプランを見ると、誰のプランかわかるほど個性が出ており、アセスメントからの目標設定がしっかりできている。	利用者の今できることや思いを言語化し、目標設定に繋げていくと、より利用者の特性が表現できると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察を記録に残し、職員間で情報を共有している。見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるため、柔軟な考えを持つよう努めている。1Fは、塗り絵、パズル、ドリル等、個別に声掛け、見守りに努めている。歌番組や映画の録画を行い、歌や映画を楽しまれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域包括のお誘いを受け、近隣の公民館で体操の参加をしていました。新型コロナウイルス感染症が収束したら、地域資源を把握し、繋げていきたいと考えます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療を実施。また精神面の不安定な方が、不穏なく過ごされるよう、主治医以外の医師に来ていただき処方検討をされている。	利用者は、月2回の内科・歯科の訪問診療と月1回の精神科の訪問診療を受けられている。訪問診療を定期的実施しているからこそ、緊急時の対応に繋がられ、利用者や家族は安心して過ごすことができる。他科診療についても、ご家族が対応できない時には職員が同行している。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師の勤務がない為、管理者が、直接、医師に上申し、指示を仰いでいる。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入院時は、病院側へアセスメント等を提供。退院時は病院側の相談員、病棟の看護師を交え、退院時カンファレンスを行っている。</p>		
33	<p>12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>病状の悪化時はホームで出来ることを家族様へ伝え、理解して頂き、入院を視野に入れ、対応している。</p>	<p>主治医とは24時間連携が可能な体制が整っており、家族へは急変時の個別の事情に対応できる説明と同意を実施している。 看取りはしない方向性であるが、延命措置についての確認書類を家族に取り、緊急時にも意思を尊重できるように対応している。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応を掲げ、すべての職員が実践出来るよう努めている。また、全入居者の家族様から延命措置に関する意思確認書を頂いている。</p>		
35	<p>13 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火訓練は年二回実施し、スタッフの周知に努めている。また、令和元年6月に非常災害対策計画を作成した。令和4年8月にはBCP作成に取り組んでいる。</p>	<p>年2回、火災を想定した訓練を外部と協力しながら行っている。さらに特別災害時の対応も職員間で共有できている。 夜間想定訓練も実施し、予期せぬ事態へも対応できるよう努めている。 お米や水などの備蓄も適切に整備されている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人格の尊重と、プライバシーの確保の大切さをしっかりと職員に認識してもらっている。</p> <p>職員の介護力を考慮したうえで、利用者同士の間関係を職員で話し合い、居室の配置を考えている。言葉にできない利用者の思いを汲み取れるよう一人一人が努力している。</p>	<p>大きな声は聞き取りやすい場合がある反面、怒っているように誤解されやすいこともあるかと思われるため、職員間での調整に期待をしたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>傾聴を大切にし、その中で利用者の希望の表出を導き出し、自己決定できるように努めている。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴、休息、レクリエーション、食事、おやつ等、利用者一人ひとりのペースに合わせてながら支援している。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節の変化を考慮し衣服の整理整頓を行い、補充の依頼を家族様に伝え、持参をして頂いている。家族様が依頼をされた場合は職員が購入の支援を行っている。</p>	
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>TVを中断し、CDを聞いて頂きながら、食事を楽しんで頂く。食事前は体操、口腔体操をされている。</p>	<p>食事は外注とし、職員がケアに専念できる状況を重視している。利用者の残存能力を把握し、できることを手伝ってもらうことにより、自分の役割を認識しながら食事を楽しんでもらえるよう支援している。定期的に体重測定もを行い、食生活による健康維持を心がけている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士によるカロリー計算のもと献立された料理を提供している。食事量、水分量を記録し、すぐに確認できる状態にしている。</p>	
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアをして頂いている。出来ない利用者は、職員が介助を行っている。月に2回歯科の往診を行っている。</p>	
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表にて記録し、個別に排泄パターンを理解し、声掛け、誘導を行っている。また、夕食後のトイレ誘導時に夜間の対応のバットを装着している。1名オストメイトの方がおられ、その方だけの排泄表を作成している。</p>	<p>利用者ごとに時間管理を行い、夜中でも順番にトイレに誘導し、できる限り自立を促せるよう、細やかな支援を行っている。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便も記録し、便秘の方は、水分の飲用、運動を心がけ、どうしても無理な場合は医師に上申し、下剤の服用をされている。また、個々の排便時間を把握しながら、服用の時間を検討している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>曜日、時間は一応決めているが、利用者が入浴を拒否された場合は無理に入浴せず、時間を改めたり、曜日を改め、臨機応変に入浴を実施している。</p>	<p>原則は週2回の入浴であるが、発汗や失禁のある場合には、臨機応変にシャワーや清拭を行い、利用者が清潔で気持ちのよい生活ができるよう配慮している。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別で対応し、休めていないと訴え、スタッフからの報告があるときは、日中の傾眠の様子等を観察後、医師へ上申を行い、眠前の服用を試み、様子観察に努めている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は調剤の方に管理して頂いている。内服の変更時は申し送りを行い、様子観察に努めている。錠剤の服用が困難な方は、粉碎し、拒否のある方は、副食に混ぜる等、工夫をしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでのお手伝いをして頂くことで、張り合いを持って頂いている。モップかけ、洗濯を干す、たたむ等をされている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日課で散歩を取り入れている。また、家族様より前もって外出の要望をされたときは、準備をし、スムーズに出かけて頂けるよう努めている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響から外出が出来ていない。	気候を見ながら、毎日順番に近所を散歩をしている。気候が良くないときでも、利用者が気分転換できるように、玄関前でレクリエーションや外気浴をしたりして、毎日短時間でも外の空気に触れる機会を作っている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で財布を所持されている方は、居られない。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙の希望があるときは、職員がお手伝いをさせて頂いている。又、個人で携帯電話をお持ちの方もおられる。毎年の年賀状はスタッフが用意したはがきに色を塗り、家族様に送っている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感のあるものをスタッフが、居室の扉付近に掛けている。また、各階の担当が季節合った作品の貼りだしを行い入居者にはお手伝いをされるように支援している。	共有スペースや廊下には、季節を感じられる装飾や利用者が作成した作品を掲示している。利用者は日中をリビングで過ごすことがほとんどであるため、換気などに注意しながら居心地の良い空間を作るよう努めている。食事のテーブルは場所が決められており、利用者が「自分の席」を意識できる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファにて、気の合った人同士で、過ごして頂いている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自身が馴染みあるものを置かれたり、居心地の良い空間作りの手伝いをして頂いている。また、職員が週に一度シーツ交換を実施し、環境整備を行っている。出来る方は、自身でされるよう支援をしている。	利用者や家族の希望に合わせて、自宅で使用していた馴染みの物等を持ち込んでもらい、家庭的な第2の住まいとして意識いただけるように支援している。居室担当の職員は利用者大切な持ち物を把握しており、配置や管理に配慮している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室には、大きく表札を提示し、わかりやすくしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ _____ _____ _____	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ _____ _____ _____	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ _____ _____ _____	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない